1 子宮頸(けい)がんとは

子宮頸(けい)がんは，子宮の入口に近い部分にできるがんで，**HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染**が原因と考えられています。

日本では毎年約 1.1 万人の女性がかかる病気で，**20 歳代の若い世代**から増え始めます。

早期に発見し，手術等の治療を受ければ多くの場合，治すことができる病気です。病状によって手術の方法は異なりますが，治療により子宮の一部を切除すると，妊娠したときに早産のリスクが高まったり，妊娠できなくなることがあります。

2 ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

ヒトパピローマウイルスは，主に性的接触により感染するウイルスで，約 200 種類以上あります。

女性の多くが一生に一度は感染すると言われており，感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが，一部の人で，**がん**になってしまうことがあります。

3 ワクチンの効果について

定期の予防接種として無料で受けられる HPV ワクチンは**3 種類**あります。
(2 価，4 価，9 価 HPV ワクチン)
2 価及び 4 価 HPV ワクチンは，子宮頸(けい)がんの 50～70%の原因とされる HPV16 型と 18 型に予防効果を持つワクチンです。
9 価 HPV ワクチンは，子宮頸(けい)がんの 80～90%の原因とされる HPV16 型と 18 型に加え，他 5 種類の HPV の予防効果があります。また，4 価及び 9 価 HPV ワクチンには尖圭コンジローマの原因となる 2 種類の HPV の予防効果もあります。
ワクチン接種により，感染予防効果を示す**抗体が 12 年維持される可能性**があるとの報告がありますが，持続効果は今も研究が続けられています。

4 ワクチンの副反応

●主な副反応

発生頻度	2 価 サーバリックス®	4 価 ガーダシル®	9 価 シルガード®9
50%以上	疼痛・発赤・腫脹・疲労	疼痛	疼痛
10~50%未満	かゆみ、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛など	紅斑、腫脹	腫脹、紅斑、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、かゆみ、発熱	浮腫性めまい、悪心、下痢、かゆみ、発熱、疲労、内出血など
1%未満	知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結、出血、不快感、倦怠感など	おう吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血、血腫、倦怠感、硬結など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、おう吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

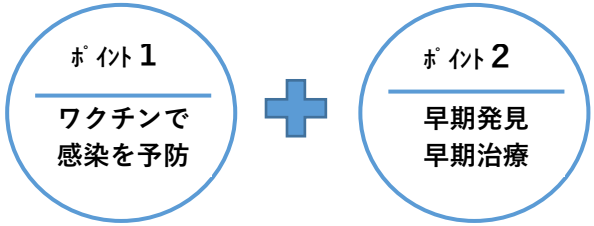
●重い副反応

病気の名前	主な症状	報告頻度※
アナフィラキシー	呼吸困難、じんましんなど	約 96 万接種に 1 回
ギラン・バレー症候群	両手・足の力の入りにくさなど	約 430 万接種に 1 回
急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	頭痛、おう吐、意識低下など	約 430 万接種に 1 回
複合性局所疼痛症候群(CRPS)	外傷をきっかけとして生ずる慢性の痛み	約 860 万接種に 1 回

(※平成 25 年 3 月までの報告のうち,ワクチンとの関係が否定できないとされた報告頻度)

5 子宮頸がんの予防のために大切なこと

HPV ワクチンと定期的ながん検診



ワクチンで全ての高リスク型 HPV の感染を防ぐことはできません。
ワクチンを接種していても，していなくても，**20 歳**になったら，子宮頸がんの早期発見・早期治療のため**2 年に 1 回**，定期的に**子宮がん検診**を受けましょう。

旭川市では，高リスク型のＨＰＶに感染しているかどうかを調べる**ＨＰＶ検査**をがん検診と同時に受けることができます。

詳細は 旭川市 がん健診 検索

6 ワクチンを受けるときの注意

痛みなどの頻度が高いワクチンですので，接種の痛みや緊張のために血管迷走神経反射が出現し，失神することがあります。
ワクチン接種の後や，けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方は，「機能性身体症状」が起こる可能性が高いと考えられます。

また，過去にけいれんの既往のある方や，薬剤の成分でアレルギーを呈するおそれのある方なども，接種を見合わせることがあります。

いずれの場合も，健康状態や体質などを医師にしっかりと伝え，よく相談した上で接種を判断してください。

7 ワクチンに関するＱ＆Ａ

Q） ワクチン接種後の「多様な症状」とは？

A） ＨＰＶワクチン接種の後に，広い範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさなど「多様な症状」が報告されました。

ＨＰＶワクチンの接種歴のない方でも，ＨＰＶワクチン接種後に報告されている症状と同じ「多様な症状」を有する方が一定数存在することが明らかとなっています。

様々な調査研究が行われていますが,「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。

Q） なぜ接種を勧める取組が再開されたの？

A） 令和３年１１月の専門家会議で，安全性について特別な心配は認められないことが確認され，接種の有効性が副反応のリスクを上回ると認められました。
このことから，本市でも令和４年４月から接種をお勧めする取組を再開することになりました。
ワクチンの成分は変わっていませんが，販売されるまでに厳しい審査を行うなど，安全性のチェックを国で行っています。

Q） 接種の中止や延期はできますか？

A） ワクチンは合計３回（シルガード®９は，15 歳未満の場合，合計２回）接種しますが，接種後に気になる症状が現れた場合，それ以降の接種を延期または中止することができます。

接種後に症状が出たときは，医師に相談してください。

8 相談窓口

北海道子宮頸がん予防ワクチン総合相談窓口

副反応による医療や生活の悩みに関すること
電話：０１１－２０６－０３５９
（北海道保健福祉部感染症対策局感染症対策課）

ワクチンに係る学校生活に関すること
電話：０１１－２０４－５７５２
（北海道教育庁学校教育局健康・体育課）

HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関

旭川医科大学病院
（地域医療連携室）

北海道大学病院
（HPV ワクチン副反応支援センター）

札幌医科大学附属病院
（リハビリテーション科）

旭川市保健所

保健予防課　保健予防係
電話：０１６６－２５－６２３７

9 詳しい情報

HPV ワクチンに関する Q&A
（厚生労働省）

各ワクチンの成分･製法や効果等
（旭川市保健所）

令和７年４月作成

HPV ワクチンを受ける前に知ってほしいこと

#子宮頸がん #HPV(ヒトパピローマウイルス)
#小６～高１女性　#キャッチアップ経過措置
#９価ワクチンが定期接種になりました

旭川市　HPV　検索

旭川市保健所